

八月二二日

朝七時半起床。九時三〇分李祖原にピックアップされ故宮博物院を見学して、淡水へ。その途中で国立台北芸術大学を見る。勿論これも李祖原の作品。淡水で、ハイライズ・アパートメントハウス見学。その一棟に李の住居がある。あんまり使っていない家らしい。ほとんど最近は台湾にいないようだから。鈴木博之ここで李祖原の六〇年代の墨書（ペイント）をゆずり受ける。これで鈴木さんも李とは長い付き合いになってしまうだろう。十四時前桃園国際空港着。空港レストランで昼食。丸々四日間李祖原は鈴木石山に附合った。中国人の仁義は厳しいものがあるな。二〇時過成田空降着。秋のような冷気で助かる。

今回の様な旅も明日からの日常的な仕事も何変るところは無い。台湾でもこの世田谷村日記を読んでいる人が少なくない数でいる事を自分なりに銘記しておかなければならない。私の日々の雑事にそれ程の意味があるとは考えられぬが、それを記録する事で、その意味を別のモノへと変換してゆく可能性はあるだろう。平凡に見える日常が旅になり、旅も又日々の常になる事ができるだろう。伊豆の漁師ハンマは今頃北の海上だろう。ロシアの監視官が今夏から船に乗り込んでくるらしいから気苦労が絶えないだろうな。一二三時世田谷帰着。

八月二三日

朝、いろいろとどこおっていた件に電話で対応する。何はともあれ足固めをしつかりしなくては。地上も地下も苦闘が続きそう。開放系技術市場の展開がおもしろくない。馬力に期待できぬ時は方法的な戦術が必須なのだが、・・・方法的に整理しないままに百件まではのぼしてゆこうという逆説的な方法を立てたばかりなのでそれはどうか。十八時王国社山岸氏来。室内設計ノート（二〇〇〇年迄）をベースにした本の打合わせ。設計ノート連載中山本夏彦に「面白い！」といってもらった奴が全部外されて、仲々建築本の出版は難しいなと思われた。普通の人が面白いと思うモノと建築界、あるいは建築業界が良しとするモノとはやっぱり大きくズレ込んでいるのだな。一所懸命建築業界からの離脱を試みようとしている私にとっては無念なものがあるのだが、これも仕方ない。山岸さんの感覚も又建築業界に対しては鋭いモノがあるのだから、彼に任せるしか無いだろう。

二〇時四〇分岐阜の山田君来地下。高山建築学校の教え子である。教え子といっても五五才の建築家だ。世田谷村は駆け込み寺の様相も呈してきているな。アジールなんて格好よい事は言わぬが、駆け込み地下室になってはいる。残念だ。駆け上がり寺と呼ばれたいの。ままならぬ事が多過ぎる。山田君の話を聞いてアトは海光にあづける形とした。高山建築学校の建築家秋沢健司君の死を昨日知って、それもショックだったのだろう。何だか今日は疲れた。十一時休む。建築家は疲れたと言ってはいけない、と李祖原に言われたばかりだが、やっぱり建築家は疲れる時には疲れるのだ。